



総 題 健康と癒し

SDA聴覚しょうがい者友の会教材部

第 6 課 信仰といやし

山地 宏 2010, 5, 1~2010, 5, 7

はじめに 5月1日(土曜日)

今週は、セレブレーションズ (CELEBRATIONS) という健康原則の5番目の文字の「B」で始まる Believe つまり信じること、信仰ということがテーマになっています。一般的にも、信じることといやされることは関係があると言われていいます。ガイドの39ページに書かれている物語などはそのいい例です。よく、プラシーボとか偽薬効果などと言われますが「これはお腹の薬だよ」と言って小麦粉を入れたカプセルを飲ませたら、本当にお腹が痛いのが治ることがあります。本当にお腹の薬だと信じて飲むから、ただの小麦粉なのにお腹が痛いのが治るわけです。しかし、セレブレーションズの健康原則の信仰の場合は、そうした単なる信じ込むことや、リラックスすることの心理的効果などといったこと以上のことを意味します。それは、私たちが創造され、私たちに永遠の命を与えようとして下さっている、私たちが愛して下さっている神様との個人的な関係に基づいた心のありかた、といったことなのです。

1. 不安の種 5月2日(日曜日)

今、私たちが住んでいる世の中には、不安の種になるようなものはいくらでもあります。私がアメリカに住んでいたときに、よく買い物に行った大きなお店の駐車場で、真つ昼間に発砲事件がありました。しかも、その発砲事件があった日に、教会員の1人がちょうどそのお店のそばを車で通りかかって、銃声を聞いたそうです。事件に巻き込まれなかったから良かったようなものの、1つ間違えば命を落としていたかも知れません。また、地震や津波や竜巻といった自然災害も、最近増えてきているように思えます。不安や恐れの原因を取り除くことは難しいように思えます。創世記3章にアダムとエバが最初に恐れ of 気持ちを持った時の物語が書かれています。その物語を見るときに、そもそも恐れ of 気持ちの根本的な原因は、神様から愛されているということが信じられなくなったことから来るものだということがわかります。神様から愛されていることを信じることによって、平安が与えられます。不安の種はなくなりませんが、平安を心に入れることで、不安がわたしたちの体全体に与える悪い影響を無力にすることはできます。

2. ある人が宇宙に向かって言った 5月3日(月曜日)

私たちの信じている神様は、私たちを造り、私たちをいつも気にかけて下さっている神様だと、私たちは信じています。ガイドに書かれている「宇宙」は、人間がどんなに話しかけても、人間の事なんて気にもかけてくれない存在のように思えます。しかし、問4の聖句に書かれているように、私たちが信じている神様は、私たちの味方で、私たちを愛し、私たちを助け、いつも関心を向けて下さっ

ている神様です。そのような神様と個人的関係を持ち続けることで、心に平安がいつも与えられるようになるのではないのでしょうか。

3. 信仰の力 5月4日(火曜日)

一般に心が体に影響を与えることは認められてきています。しかし、信仰を持つことが、健康にとっても、よい影響を与えることが色々な調査などでわかってきています。色々な例が副読本の76ページあたりから書かれています。その中で、私が興味をひかれたのは、「霊性は信者のためになるだけでなく、その地域の未信者のためにもなっている・・・信仰の信奉者が数多くいるところでは、その地域社会も健康的な利益を受けていると、研究は証明しています」という文章です。信仰の力は信仰をもっている人の健康に良い影響を与えるだけでなく、周りに住んでいる人たちの健康にも良い影響を与えているというのです。信者が実践している健康的なライフスタイルが、周りの人たちに影響を与えるということがあるでしょう。また、禁酒禁煙やドラッグなどの害から地域の青少年を守っているということもあるかも知れません。

4. ストレスによる^{つか}疲れ 5月5日(水曜日)

ストレスは現代社会の大きな問題になっています。少なくともアメリカ人の三分の二が、少なくとも週に1度はストレスで疲れきっているという調査結果があると副読本に書かれています。ストレスが体に与える悪影響は、心臓がドキドキする、高血圧、過呼吸、消化機能への悪影響、血液が凝固しやすい、糖尿病発症のきっかけをつくる、など、その他にも様々な悪影響を体を与えられています。ストレスをためないためにはどうすればいいでしょう。まずは、ライフスタイルを^{ととの}整えることです。ニューススタートやセレブレーションズで薦められている生活習慣を^{じっせん}実践することです。それと、イエス様との個人的な関係を日々続けることです。それによって喜びと平和が与えられます。

5. 信仰と^{きせきてき}奇跡的ないやし 5月6日(木曜日)

福音書にはイエス様の^{おこな}行った奇跡的ないやしの物語がたくさん書かれています。ある人のいやしの物語では、その人の信仰が特に取り上げられています。またある人のいやしの物語では、いやされた人の信仰については特に何も言われていません。あまり奇跡的ないやしを^{きょうちよう}強調すると、^{きよくたん}極端になると、祈ってもいやされないことがあると、その人の信仰が弱いというように、その人の信仰の足りなさを責めるようなことになりかねません。そのような考え方は聖書的ではありませんし、私たちの知るところをはるかに^こ超えた、神様のみむねについての理解が足りないために起こってくる考えです。どのような方法でいやされるのがいいのかを一番よく知っておられるのは神様です。その神様に信頼して、方法はお任せして、私たちはいやしを求めて祈りますけれども、その病気がいやされることが^{すべ}全てではなく、神様のみこころが行われることをこそ、求めて祈るべきなのかもしれません。ガイドの45ページの今週のメッセージの半分ぐらいのところから書かれている『ミニストリー・オブ・ヒーリング』からの引用文をよく読んでみてください。

